痛

六年

画数 12
筆順 疒 疒 疒 痛 痛 痛
オン ツウ
クン いた＝い＝む＝める

成り立ち

寝ている人の形と、ベッドの形とで、〝病気〟の意味を表した〝疒〟と、〝通信〟の意味の〝甬〟とを組み合わせて作った字です。

「病気であることを通信する〝いたみ〟」を表した字です。人は、胃が痛むと、初めて胃が病気の状態にあることが分かるのです。〝痛み〟は、病気ではなくて、「病気にかかったことを知らせてくれる〝通信〟」なのです。〝いたみ〟、〝いたむ〟こと、〝いためる〟こと。例頭痛、腹痛、苦痛、鎮痛、心痛、沈痛、激痛。

また、「ひどく」の意味を「痛く」と言うところから、「ひどく」「非常に」の意味にも使います。例痛快、痛感、痛烈、痛切、痛慣。

使い方

▽食べすぎたせいで、腹痛を起こしてしまったので、鎮痛剤を飲もうとしたら、おかあさんが、「やたらに薬を飲むものじゃありません。少し位なら我慢しなさい。ただの食べすぎなら、そのうち痛みはおさまるわよ」と言いました。

▽ぼくはスキーが好きです。リフトで山のてっぺんまで登って、一気に滑りおりるのは、とても痛快です。

熟語例

▽頭痛（頭が痛むこと。）
▽腹痛（おなかが痛むこと。）
▽苦痛（苦しく痛むこと。身体的な痛みにも、精神的な悩みにも、つかいます。）
▽鎮痛（痛みを鎮めること。）
▽心痛（心を痛めること。）
▽沈痛（悲しみや心配などで沈んだ痛々しいようす。「沈痛な表情」などというふうに、つかいます。）
▽激痛（激しい痛み）
▽痛快（非常に愉快なこと。）
▽痛感（強く感じること。）

展

六年

画数 10
筆順 尸 尸 尸 展 展 展
オン テン
クン

成り立ち

人が体をゆったりとさせてすわっている形の〝尸〟と、ゆったりとした衣服の意味の〝襄〟の省略された〝衣〟とを組み合わせて作った字です。

「ゆったりとした衣服を身につけ、体をのびのびとさせる」ことを表した字です。

「体を〝のばす〟」ことですが、今は、「物を〝のばす〟」こと、「のばし広げる」ことの意味に使います。例展示、展開、展覧会、親展。

「のびる」こと、「のび広がる」という意味にも使われます。例進展、発展、展開。

また、〝展覧会〟の略語として使われます。例美術展、名画展、個展。

使い方

▽わたしは上野でひらかれた近代絵画の展覧会に行きました。近代絵画の展覧会に行くのは、これが初めてでしたので、とてもびっくりしました。近代の絵というのは、ずいぶん変わっていると思います。

▽ぼくの町は、最近大変に発展しました。色々な企業が進出して来て、活気があふれています。また、さまざまな催しが企画され、展示会などもひらかれて、文化的にも進展しました。将来がとても楽しみです。

熟語例

▽展示（たくさんのものを広げて見せること。）
▽展開（くり広げること。のび広がること。「試合の展開は興味深かった」などというふうに、つかいます。）
▽展覧会（何かを広げて見せる催し）
▽親展（本人が開くように、手紙のあて名のわきにそえて書く言葉。ほかの人は開いて読んではいけませんというしるし）
▽進展（進歩発展すること。）
▽発展（のび栄えること。）